

## 北筑後地区

### 事例発表 Ⅰ

筑後市シニアクラブ連合会の取り組みについて

筑後市シニアクラブ連合会  
女性部長 近藤 キヌヨ

私は、筑後市シニアクラブで、女性部長をさせてもらっています、近藤です。  
筑後市の真ん中を、鹿児島本線が通り、西牟田駅、羽犬塚駅、船小屋駅があり、新船小屋駅は新幹線が止まります。  
また、ソフトバンクの2軍の球場があります。

筑後市は、今現在、小学校区が11あります。  
老人クラブが、完全になくなっているところが2か所、校区内に1単位クラブしかないところが、4か所です。

私が、女性部長になった経緯をお話しします。  
前任者の女性部長の所属する老人クラブがなくなってしまい、シニア連女性部長の役が続けられなくなり、私が副部長から昇格しました。  
老人クラブに入って、長くないのですがこの場に立っています。  
私の所属している西牟田は、久留米市と筑後市に分かれています。  
以前は一緒だったようです。ですから、あまり大きな校区ではありませんが7行政区あります。

1か所のクラブは、役員のみなり手がいないなどの理由で、クラブを続けるのを断念されました。

クラブを復活したいという声も上がりましたが、役員のみなり手の問題を解決できなかったようです。

私は、北牟田行政区の、長栄会に所属しています。  
会員は、男性14名、女性23名の計37名です。  
私たち長栄会も、他の地域の老人クラブとほとんど同じような活動をしています。

新会員が増えない、役員のみなり手がいないなど老人クラブの悩みも同様です。若い人は、「入会すると、役員にさせられる。」などの理由で、なかなか会員

は増えません。

しかし、今年 2 名、新会員が増えました。新会員には、「役員は、すぐにならなくていいよ。しばらく、私がするから。」と説得しました。

私は、長栄会副会長と、女性部役員をしています。

私の役員寿命の、先は見えませんが、会員が増えたことは喜ばしいことです。

どこの単位クラブも、同じように、会員の高齢化でせっかく増えても、亡くなられる方や、健康の面で活動もままならなくなっている方もいます。

高齢者だけの一人暮らし、高齢者だけの夫婦暮らし、昼間だけ高齢者だけがいる家庭に、月に数回訪問して、話を聞いたり、世間話をしたり、家事手伝いなど、全国的な女性部役員の活動である、高齢者ネットワーク事業の取り組みを、私たちもしています。

私は 9 年間、民生委員をしてきました。家庭訪問は、苦手なものでした。

しかし、回数を重ねるうちに、心が通じ合い、色々な話をされるようになりました。

何回も同じ話をされたり、長く生きておられるから自分の歴史を語られたり、健康法や、料理なども教えてもらいました。

本好きの高齢者、海外暮らしをされたこと、ご自分の若いころの苦労話、夫を亡くされた妻など、月に 1~2 度の訪問でしたが、待っておられました。

話も長くなることもありましたが。訪問して学んだことは、聞き上手になり、相手の気持ちに少し寄り添えるようになったかなと自負しています。

高齢者ネットワークの活動と、民生委員の活動が、重なるところもあります。

私の地域のことではありませんが、民生委員のやっていることを、老人クラブがしていると、もめたことがあったそうです。

しかし、趣旨が違うし、高齢者の中には、訪問を嫌がられる人もいます。

そのような場合は、民生委員が行っても、老人クラブが行っても同じです。

ですが、私たちの訪問を歓迎される人、かかわってくれる人を待っている方もおられます。

老人クラブは、身近な仲間です。

これからも、自信をもって高齢者ネットワーク活動に、力を注ぎたいと思っています。